

環境教育映画の概要(環境省委託作品)

114.あなたが主人公です～循環型社会づくり～

(平成12年度製作、VHS 30分)

引っ越しを明日に控えた大山一家。苦々しい顔の父を後目に使わないものはどんどん捨てようとする母たちだが、テレビの中から語りかけてくる、廃棄物問題の現状、循環型社会形成推進基本法の理念、グリーン購入法など新しい法律の解説や、政府・企業・自治体・家庭の取り組み事例を目にし、もう一度自分たちの出したごみを見なおす。出演：辰巳琢郎氏、ほか。

113. 環境省発エコミュージカル「ごみ・で・な～いらんど21

(平成12年度製作、台本付 VHS 50分)

このミュージカルは「循環型社会形成推進基本法」を分かりやすく紹介するためのもので、年齢を問わず楽しめる内容になっています。ある家族が、ごみや循環型社会実現のためのヒーロー、エコロジイとの対話により、ごみを出さない工夫や、家電リサイクル法や食品リサイクル法といった関連する法律や制度について、楽しく学んでいくというストーリーです。

主題歌には、詩作コンクールで最優秀賞(環境大臣賞)を授賞した増田光夫さんの作品「あしたの名前」が使われています。また、出演者は劇団俳協のメンバーに加え、一般からの公募により集まった市民で構成されるなど、市民参加型のミュージカルとなっています。

112.もっと知りたい! 環境アセスメント

(平成10年度製作、VHS 23分)

道路、空港、ダムや発電所……。これらをつくることは、我々の豊かな生活を維持させるためには、絶対欠かせないものでしょう。しかし、いくら必要な開発事業とは言え、われらが我々を取り巻く環境へ及ぼす影響は、出来るだけ小さなものとする必要があります。

そんな考え方から生まれたのが、環境アセスメント(環境影響評価)制度です。環境アセスメントとは、開発事業の内容を決めるに当たって、それが環境にどのような影響を及ぼすかについて調査、予測、評価を行い、その結果を公表して国民、地方公共団体等から意見を聴き、それらを踏まえて環境の保全の観点からよりよい事業計画を作り上げていこうという制度です。

このビデオは、開発事業に直面することになった方や、環境アセスメントに興味を持った方に対して、環境アセスメントがどのようなものか、その趣旨と手続きに関する基本的な理解を得ていただくためのものです。

111.キミもなれる 地球を守るアースレンジャー

(平成8年度製作、VHS 22分)

こどもエコクラブは、地球の環境を守るために、自分たちの地域や町で、仲間と一緒に地球となかよくなるための活動を行う小・中学生のクラブです。

こどもエコクラブの活動をより多くの人に知っていただけるための推進ビデオです。

なぜ「こどもエコクラブ」が誕生したかなど、入門用に企画され、こどもエコクラブが、どのようにして、どんな活動を行うか、すでに参加しているクラブの活動状況をとおして紹介しています。

110. 森の環境教室

(平成7年度製作、VHS 15分)

環境省では、環境保全に係る普及啓発の一環として小・中学生を対象とするビデオ版環境白書がこの度企画・作成しました。

平成7年版環境白書の第1章「文明の発展と地球環境問題」や第3章第1節「土に見る我が国の環境」の部分をコンピューター・グラフィックなども交えながら、視覚的な理解を促すとともに、環境問題について考えるきっかけとなることを狙いとしています。

109.ちきゅうだいすき～みんなで楽しむエコライフ～

(平成6年度製作、VHS 20分)

環境問題を「ゴミ」「水」「空」「緑と生き物」の4テーマに大別している。

内容はテーマごとに、「日常生活との地球環境の関わり」「地球環境問題の現状」「身近にできる暮らしの工夫」「テーマに関する子供たちの意見」を取り入れています。

「ゴミ」 - ゴミレンジャーの活躍によるゴミ減量作戦

「水」 - 華麗なウォーター・マジック・ショーによる節水、汚濁防止の工夫

「空」 - テレビゲーム風の展開による省エネルギーの工夫"めざせエコハウス"

「緑と生き物たち」 - ドードーをはじめとする絶滅動物たちの会話による自然を守る工夫

108.みんなで守ろう地球の未来～環境を守る市民団体の活動～

(平成5年度製作、VHS 23分)

環境を守るための様々な活動に取り組む環境保全活動を行うNGO(非営利の民間団体)にスポットをあてたドキュメンタリービデオです。

リサイクル活動(ゴミの回収)、アカウミガメの保護・調査活動、海外での植林活動をしている市民団体等を紹介し、また、それらの活動を経済的に支援する地球環境基金について紹介しています。

107.地球サミットからの報告～今こそ行動へ～

(平成4年度製作、VHS 30分)

1992年6月ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された「環境と開発に関する国連会議(地球サミット)」は、約180ヶ国が参加し、約100ヶ国の元首・首脳・約1万人に及ぶ政府代表団が出席する大会議となりました。

本ビデオは、この地球サミットの開催に至る流れや会議の様子、会議の主たる成果及び、地球環境の現状などを紹介しています。

106.私たちのリサイクル・プラン

(平成3年度製作、VHS 30分)

地域の子ども会でリサイクル活動に取り組もうとする主婦が、近所の主婦2人に相談を持ちかけ、3人で日本各地の廃棄物問題の現状やリサイクルの取り組みを調べていきます。沼津市、目黒区、川口市などの事例やリサイクル法などの制度を調べ、子ども会でリサイクルに取り組む際の方法などについて話し合います。

105 .森の妖精

(平成3年度製作、VHS 30分)

子ども達に環境保全の大切さを感じてもらうことを目的としたフルアニメーションビデオ。ティム(少年)、メグ(少女)の2人の子どもを主人公に、森の妖精グリーンフェアリーや森の動物達、国王や村の大人達を登場人物として、食糧増産のための森林伐採(開発)と森林の保護とのバランスの問題を描いています。環境保全に関する知識よりも、環境保全の大切さを子ども達のハートに呼びかけることをねらいとしたもの。

104 .熱帯雨林の減少

(平成元年度製作、VHS 20分)

野生生物の宝庫であり、人類の貴重な資源である熱帯雨林が、急速に失われつつあります。熱帯雨林は今、どのような状況に置かれているのでしょうか。そして、熱帯雨林が失われることによってどのような現象が起きるのでしょうか。豊富に盛り込まれたアジア、アマゾンの熱帯雨林の映像を基に、こうした問題を考えてみましょう。

103 .地球汚染 ~大気に異変が起きている~

(平成元年度製作、VHS 30分)

46億年の歴史の中で地球が育んできた大気、その大気に今、異変が起きています。異常気象、酸性雨、オゾン層の破壊、温暖化。こうした大気に関わる地球規模での環境問題の現状を、最新のデータと各国のリアルな映像を基に、克明に解説しています。

102 .豊かな環境を求めて~国立公害研究所~

(昭和61年度製作、VHS 20分)

環境の保全に役立たせる諸研究の一端を描きつつ、我が国有数の研究機関として日夜高度な研究に取り組んでいる研究所の施設や活動を併せ紹介したものです。

31 .取り戻そうさわやかな大気~大気汚染はいま~

(平成2年度製作、VHS・16ミリ 20分)

大気中の硫黄酸化物(SOx)濃度は、年々改善されてきていますが、窒素酸化物(NOx)濃度はほぼ横ばいで、改善がはかばかしくありません。その原因のひとつは自動車排出ガスにあるのです。大気汚染の現状、これまで取られてきた対策、SOx、NOx濃度の変化、さらに地球規模の大気汚染などを扱い、大気環境をより良好な状態に保つために、今何が必要なのかを解説しています。

30 .取り戻そう水の笑顔~生活雑排水を考える~

(平成元年度製作、VHS・16ミリ 24分)

私たちの生活と切り離すことのできない水。この水を汚す原因の一つとして、近年、台所などからの生活雑排水が大きな問題となっています。私たち一人ひとりが家庭でできる雑排水対策とは。そしてきれいな水を取り戻すために地域でできる取り組みとは。こうしたことについて、実際の事例を基に考えてみましょう。

29 .環境アセスメント~よりよい環境を求めて~

(昭和63年度改訂製作、日本語・英語版、VHS・16ミリ 22分)

環境を損なうことなく開発を進めることが求められている現在、環境アセスメントの果たすべき役割は大きく、事業者、住民、行政すべてが環境アセスメントを十分に理解し、この仕組みを積極的に活用する必要があります。環境アセスメントの手続きに焦点をあて、瀬戸大橋の建設など具体的事例によって分かりやすく解説したものです。

28 .つくってみようアメニティ・マップ

(昭和63年度製作、VHS・16ミリ 20分)

大気、水、緑、騒音、街並み、まちのよごれなど身近な環境の状態が今どうなっているかを地図上に書き込み、みんなでどうしたらよいかを話し合う「アメニティ・マップづくり」の手法について、小学生・町内会・主婦グループの活動事例をあげて紹介するものです。

27 .川のあるまち

(昭和62年度製作、VHS・16ミリ 20分)

昔から水の恵みを暮らしに取り入れてきた郡上八幡の街中を流れる用水の使用にあたって、代々伝わる水環境を守る慣習、地域の人々の話し合いや個人の心がまえなどのほか、夏の風物詩 - 盆踊りと清掃活動、食用油や米のとき汁の利用、生ごみの堆肥化など環境保全につながるさまざまな心配りや行動を紹介しているものです。

26 .GoGo子ども発見団~環境を測る~

(昭和62年度製作、VHS・16ミリ 20分)

川下は工業地帯、川沿い一帯は住宅や工場が立ち並ぶ都市河川、その川沿いを歩きながら川の水質や動植物、沿線の湧き水や水の使われ方、あるいは川沿い道路の植物による大気汚染状況など身近な環境を測定しながらこの川の水源地を探し求める小学生グループの活動状況を紹介しているものです。

25 .いま都市環境は

(昭和61年度製作、VHS・16ミリ 20分)

今や都市化が進み、豊かで便利な生活が営まれている半面、ごみ、生活雑排水、交通公害、近隣騒音など都市環境の保全のために対処しなければならない諸問題が多くなっています。これらの現状と問題点をえぐり出し、その対策や街づくりのための市民活動などを紹介するものです。

24 .雑木林は語る

(昭和61年度製作、VHS・16ミリ 20分)

武蔵野の雑木林の四季それぞれの景観と生態、人手によって作られ維持されてきたその成り立ち、生産資源としての働きを描き、身近なこの自然に親しみこれを守ろうと努力している人々の姿を紹介するものです。

23 .環境保全に取り組むひとびと

(昭和60年度製作、VHS・16ミリ20分)

地域の、鯉を守るための河川浄化、住宅団地の騒音自粛、山の緑を守るための道路補修などの活動に取り組む人々の状況、これらの活動の動機、体制づくり、行政との連携などをわかりやすく紹介し、地域住民による環境保全活動に役立てようとするものです。

22 .土のはなし

(昭和60年度製作、VHS・16ミリ20分)

私たちの身近にある"土"は、植物の生育母体となり、水を守り、生活環境を守る働きをもっていることを説明しながら、土の成因や土の中でその働きを助けている生きものを紹介し、土の大切さを訴えています。また、土を汚染させたり、荒廃させたりすると、その復元には長い年月と労力・資金が必要であることもわかりやすく説明しています。

21 .川の生きものと水質

(昭和59年度製作、VHS・16ミリ20分)

河川の調査対象生物の生態を水質状態別に収録し、一般住民・中学生グループの調査状況を紹介、水質簡易調査の普及と河川の環境保全意識の啓発に役立てようとするものです。

20 .森を観察する～春から夏へ～

(昭和58年度製作、VHS・16ミリ20分)

優れた自然の生態系を保ち、人の利用も可能な森林地域を選び、森林の季節的な生態の変化にサル・鳥類などの活動を挿入しながら、専門学者の解説を交え紹介したものです。

19 .きれいな大気を保つために～浮遊粒子状物質対策～

(昭和58年度製作、VHS・16ミリ20分)

大気汚染物質のうち、ばいじんや粉じんなど、いわゆる浮遊粒子状物質は、汚染の仕組みが複雑で対策が難しいものです。

この映画は、浮遊粒子状物質の現状と国や各自治体そして企業や一般国民の努力をさぐりながら、きれいな大気を保つための方法を知ろうとするものです。

18 .森を観察する

(昭和58年度製作、VHS・16ミリ20分)

最近、森林浴という言葉が流行語になるほど、森で楽しむことの意義が広く人々と認識されてきました。森の中で自然とのふれあいを楽しむためには、森についての正しい知識と理解が欠かせません。

長野県志賀高原とその周辺の森を舞台に、森の中で見られる興味深いさまざまな現象と生態を、季節の移り変わりとともに紹介します。

17 .快適な環境をつくる～アメニティ・タウンの実現をめざして～

(昭和58年度製作、VHS・16ミリ20分)

早くから組織的に快適な環境づくりに取り組んできた欧米では、緑の保護ばかりでなく、窓の形や建物の色彩基準の設定など、環境への気くばりが生活にとけこんでいます。

この映画は、欧米の実情を紹介しながら、我が国にも最近芽生えはじめたアメニティへの関心を描き出しています。

16 .うるおいとやすらぎの街紀行

(昭和58年度製作、16ミリ25分)

「うるおいとやすらぎの街」を求めて、レポーターの岸ユキが、盛岡市、東京の世田谷区、北九州市を訪ねます。

盛岡では、都市景観のあり方と歴史的建造物の保存を中心に、世田谷では「多摩川グリーン作戦」を。また、北九州では「緑豊かな」街づくりと、各地の「うるおいとやすらぎ」の街づくりの成果を紹介し、快適環境の一つの指針を示したユニークな番組です。

15 .今、快適環境を考える

(昭和58年度製作、16ミリ30分)

だれもが望んでいる「うるおいとやすらぎのある快適環境」は一朝一夕にできるものではなく、行政の努力に加えて地域住民の理解と協力が大切です。

アメニティ・タウンづくりに協力している地域住民のさまざまな事例を金沢市、横浜市、高松市を中心にとりあげ、快適環境についての認識を深めることをねらい、草柳文恵が各地取材します。

14 .環境とエネルギー～大気汚染を中心に～

(昭和57年度製作、VHS・16ミリ20分)

わが国の大気汚染防止対策が、どのように進められているかを具体的にわかりやすく説明しています。特に、K値規制や総量規制方式の仕組みと、日本が世界に誇る監視測定のやり方などを図解や事例で詳しく紹介しているのが特徴です。

13 .わが町、コミュニティ道路～都市と環境～

(昭和57年度製作、16ミリ20分)

大阪市の阿倍野区長池のいわゆるシグザグ道路にはじまったコミュニティ道路は、56年度からの全国的に建設が始められました。

この映画は、東京都足立区綾瀬につくられたコミュニティ道路の計画段階から完成までの経過を追い、このコミュニティ道路が、単に安全な歩行者空間の実現だけにとどまらず、自動車による騒音、振動、排出ガスなど、都市・生活型公害からの解放と、より快適な環境を求める住民たちの運動契機となった様子などをドキュメント風に描いたものです。

12 .湖はいま～霞ヶ浦を例として～

(昭和57年度製作、VHS・16ミリ 20分)

かつてはシラウオ狩りの帆曳船で有名だった霞ヶ浦も、最近ではアオコが大量に発生するなど、水質が汚濁した湖沼の典型といわれるようになった。しかも、その汚濁の原因は、特定の産業だけではなく、付近住民の日常生活から出る家庭雑排水も含め実に多様です。

この映画は、その実態を明らかにするとともに、霞ヶ浦をよみがえらせる官民一体の努力を紹介したものです。

10 .人類の新しいあけぼのをめざして～環境とエネルギー～

(昭和56年度製作、16ミリ 20分)

人類は、道具とエネルギーの利用を進めながら環境を改造して、今日の物質文明と繁栄を築いてきました。

しかし、大規模なエネルギーの使用は環境問題を生みます。人類が繁栄を続けるためには、エネルギーを多消費する現代の生活の価値観の変換が求められています。

この映画は、エネルギーの利用と環境保全とのかかわり合いについて、多くの事例をあげて解説し、今後のより望ましいかかわり合いのあり方を考えていくきっかけづくりに役立てようとするものです。

9 .孫悟空と空きカン大王

(昭和56年度製作、VHS・16ミリ 20分)

最近、問題になっている「空きカン」の投げ捨てについて、孫悟空を主役にアニメと実写を併用して、散乱防止と省資源の両面をわかりやすく解説したものです。

8 .快適な環境を求めて～行動する都市と市民～

(昭和55年度製作、16ミリ 20分)

全国的に進む都市化の中で、快適な環境づくりはどのような意味をもっているのでしょうか。静岡県掛川市の場合などの具体例によって、行政と市民が一体となって取り組むコミュニティ活動が快適環境づくりにどんな効果をあげているかをとりあげました。

7 .静かなれ白鳥の湖～環境アセスメント～

(昭和55年度製作、VHS・16ミリ 20分)

環境アセスメントとはどういう意義と内容をもっているか、北海道苫小牧東部地区の開発の際、環境アセスメントが実際にどのように行われたかを11年の歳月の流れを振り返ることによって、わかりやすく解説しました。

6 .自然のしくみ～富士山に学ぶ～

(昭和54年度製作、16ミリ 30分)

富士山の広い裾野は、昔から、人間とのかかわりの中で姿を変えてきました。熔岩の上に成立した青木が原樹海。両親と精進口登山道をたどった少年は、森林の中の大小の植物や動物たちが、複雑微妙にかかわり合って生活を営んでいることを学びます。高度が増すにつれてきびしくなる気象条件。その中に造られた観光道路は自然のバランスを崩し、一方では増加した観光客が残すゴミもまた高山の生物相を変化させる要素です。自然に手を加えようとするときは、まわりの自然にどのような影響を与えるか、よく検討することがいかに大切かを美しい富士山の自然を素材に訴えます。

5 .森と人間～下北に生きる～

(昭和53年度製作、16ミリ 30分)

森を自然の生態系の一つとしてみると、そこには、さまざまな動植物が絶妙なつり合いを保ちながら生存していることがわかります。私たち人間もまた、自然の一員にほかなりません。

この映画は、豊かな自然に恵まれた下北半島を舞台に、そこに住む人々がいかに森の恩恵を受けているか、また、どのようにして森を守り育てているかを多角的に描き、環境保全の重要性を訴えたものです。

4 .私たちは私たちの街が好きだ～素顔のかべ新聞～

(昭和52年度製作、VHS・16ミリ 30分)

都市化の波により汚染していく川越市の赤間川。

市立初雁中学校の生徒たちは昔の川を取りもどそうと川の清掃、奉仕活動に立ち上がり、郷土の「自然環境」の調査を行い、今後どのようにしたらよいかを訴える「かべ新聞」を作り上げました。この映画は、生徒たちの郷土愛と、環境づくりに取り組む姿を描いています。

3 .かもめとげんちゃん

(昭和54年度製作、16ミリ 15分)

海辺に遊びに来たげんちゃんは、不思議なカモメに案内され、ビルや工場に囲まれたプールのような東京湾を空から眺めます。海中にもぐると、そこには、魚の住めない汚れた水の世界。原因は、汚れた水が流入するばかりで、外洋との水の交換が少ないから。そのため、汚水処理場を造ったり、人工なぎさを造って美しい水、自然を取りもどそうという努力をしていますが、まだまだ。アニメを組み合わせ、幼児にも興味をもって理解させるようやさしく構成されたものです。

2 .にほんざる

(昭和53年度製作、16ミリ・8ミリ 15分、アニメーション)

石川県白山国立公園に住むにほんざるの生態をありのままに撮影したものです。幼児等に親近感をもたせるため、特に2歳のオスざるモン太が主人公になっています。

この映画は、にほんざるの生活を通じて、幼児等の動物を愛護する心を育てるとともに、自然環境の大切さを訴えるものです。

1.しろちどり

(昭和52年度製作、VHS・16ミリ・8ミリ 15分、アニメーション)

しろちどりのお母さんが、卵をあたためています。そして、しろちどりの赤ちゃんは、自分でエサを探したり、敵から身を守ることを覚え成長していきます。人間が来た。人間は自分たちのために自然を造りかえてしまう。しろちどりは、住み良い土地を追い出され、飛んで立っていきます。どこまでも、どこまでも。

自然保護の大切について、子供の感受性を育て、広げることを基調に、この映画は作られています。

環境教育映画の概要(財団助成作品)

406.地球砂漠化ってどんなこと?

(平成8年度製作、VHS 20分)

叔父から送られてきたイースター島の絵ハガキを見て、イースター島についてパソコンを使い調べようとする卓也と礼子。その画面からモアイ像があらわれたことで、2人とモアイの会話がストーリーを展開する。

モアイは自分の住む緑豊かなイースター島において、森林伐採や人口増などにより、環境が破壊され破滅の道をたどっていったことを説明しながら、地球上の古代文明が環境破壊により衰退していったことを訴えていく。

また、モアイは現在の地球の状態についても警告を発し、その話に熱心に耳を傾ける卓也と礼子は砂漠化の問題に興味をもち調べ始め、自分たちにも何かできることがないのかを見つめようとする。

405.温暖化から地球を守る～僕らでつくる、新グスコブドリの伝記～

(平成7年度製作、VHS 23分、アニメ合成)

宮澤賢治の名作「グスコブドリの伝記」をきっかけに、主人公祐介は、異常気象がなぜ起こるのかを考えていました。それから、クーボ博士と出会い『銀河鉄道』の車窓で「地球温暖化」等について教わります。

全体的に叙情的でファンタジックに展開していきます。

404.プラスチックが見た夢～生活環境とプラスチック～

(平成6年度製作、VHS 20分)

さまざまな優れた特徴や機能をもつプラスチック製品や環境問題とどのようにつながるのかをプラスチックを擬人化させマルチメディアの雰囲気を持たせ、主人公の少年アキラとハイパープラスチックの会話形式でプラスチックの原料である石油の採取から原料の製品化、生活面での利用、そして廃棄、リサイクルまでと、プラスチックを広範囲多岐に紹介しており、ライフサイクルの一連の流れの中で、環境問題との関わりへと話は展開します。

403.まもろう水鳥の生息地～湿地の保全～

(平成5年度製作、日本語・英語版、VHS 20分)

ラムサール条約による湿地の定義、湿原や干潟などのさまざまな湿地の姿やそこに生きる生き物の姿、湿原や干潟の生態系の解説などを、わが国有数の湿地である釧路湿原、伊豆沼、谷津干潟の映像によって描き、私たち一人ひとりが、身近でありながら、普段あまり意識していない湿地という環境を、どのように守っていくかを紹介しています。

平成6年度文部省選定：学校教育教材(中学校・高等学校対象理科)

1994年優秀映像教材選奨(主催:(財)日本視聴覚教育協会):ビデオ部学校教育部門

(中学校向)最優秀作品賞受賞

402.「この星に生きる!」地球博士の環境クイズ

(平成4年度製作、VHS 21分、アニメ・実写合成)

地球の環境危機を心配する地球博士が、環ちゃんと類くんという2人の都会っ子と出会い、クイズを交えながらオゾン層の破壊、温暖化、海洋汚染、酸性雨、熱帯林の破壊、野生生物種の減少などの地球環境問題をわかりやすく解説し、私たちに何ができるかを考えていきます。

401.地球をゴミ惑星にするな

(平成3年度製作、VHS 30分)

大都市を中心に世界各地で深刻な問題となっているのがゴミの問題。それを解くカギのひとつとしてリサイクルがある。本ビデオは、リサイクルの先進国といわれているスウェーデンやドイツを中心に、イギリス、フランス、アメリカ、モルジブなどの国々の廃棄物・リサイクルを取り巻く現状をドキュメンタリー調で描いています。

314.水はともだち

(平成2年度製作、VHS 16分)

水質汚濁の大きな原因として、近年注目されている生活排水。スペース・シャトルから水の惑星地球の美しさにみとれた主人公カン太君とキュウ子ちゃんの2人は、ものしりロボット・エコ3号の導きうけながら、川の浄化作用や、家庭からの生活排水がどのように川や湖などの水を汚しているか、全国各地の川や水を守る運動や家庭でできる水を汚さない工夫などを学んでいきます。

313.地球と二酸化炭素

(平成元年度製作、VHS 15分)

地球温暖化の原因物質の一つとして、近年注目されてきている二酸化炭素。それは、私たちの環境の中でどのような役割を果たしているのでしょうか。二酸化炭素の妖精ライミーと一緒に、二酸化炭素の素顔を探り、地球環境を守るにはどうしたらよいかを考えてみましょう。

312 .テレビゲームの冒険～よりよい環境のために～

(昭和63年度製作、VHS 15分)

子どもたちが住むまちの中心広場や国道筋で騒音、排気ガス、投捨てすいがら・空かんなどの状態を調べたり、杉並木や沼、水源の森など身の回りの自然を観察し、昔の話を聞いたり、なぜ?と考えることによって環境を大切にすることを意識を育てようとするものです。ここでは子どもの興味を引くようテレビゲームの手法を取り入れています。<備考>当協会が開発した"環境教育カリキュラム"の内容に関連して製作されたものです。

311 .森の声が聞こえますか

(昭和62年度製作、VHS 15分)

森は木材を生み出すだけでなく、雨水を貯え飲み水を供給したり、洪水を防いだり、うるおいを与えてくれるなど私たちの生活に欠かせない働きのほか、国内外で森が減少している様子や森を育てる努力を描いて新しい森を守り育てることの大切さを分かりやすく解説しています。<備考>当協会が開発した"環境教育カリキュラム"の内容に関連して製作されたものです。

310 .水といっしょに

(昭和61年度製作、VHS 15分)

小学生の兄妹と愛犬チビがオリエンテーリングに参加し、そのコース途上で出会った川、ダム、汚水処理場などで、水の成り立ち、使いみち、後始末など私たちの生活にとって大切な"水"について考えようとするものです。愛犬チビの視点で眺め、擬人化したチビの話として物語が進められています。<備考>当協会が開発した"環境教育カリキュラム"の内容に関連して製作されたものです。

309 .明日のために～私たちと環境～

(昭和60年度製作、VHS 20分)

川に投げ捨てられた"空き缶"を主役に、上流では水、空気、緑の働きを、中流ではかつての公害問題や最近の環境問題などについて語らせ、下流では"さけ"の戻った川の光景を描きながら、よりよい環境を育て、保つための努力を訴えています。

308 .快適な環境をつくる～アメニティ・タウンの実現をめざして～

(昭和59年度改訂製作、16ミリ 26分)

早くから組織的に快適な環境づくりに取り組んできた欧米では、緑の保護ばかりでなく、窓の形や建物の色彩基準の設定など環境への気配りが生活にとけこんでいます。

この映画は、欧米の実情紹介とともに、我が国の事例も紹介しながら芽生えはじめたアメニティへの関心を描きだしています。

307 .ふるさとの森をつくる～隠岐・酒田からの呼びかけ～

(昭和58年度製作、16ミリ 30分)

最近、緑の効用が話題となっており、緑化の実践には各人が何をすればよいかの具体的な処方箋が求められています。この映画は、隠岐と酒田市を例に、都市と過疎の両極端な環境下での森づくりの実際を紹介し、だれでも工夫と意欲さえあれば、森づくりに参加できることを教えています。

306 .川が結ぶ～緑の交流～

(昭和57年度製作、16ミリ 30分)

東京の下町、隅田川に近い江東区八名川(やながわ)小学校の生徒たちが、隅田川の源流の埼玉県秩父郡大滝村を訪ね、川の水につかり、森を歩いて自然を観察しました。そして、山の樹木が水の保存などに大切な役割を果たしていることを学びました。また、自分たちの回りの緑を調査して、都会にもいかに緑が必要かを勉強しました。

305 .ここがぼくらの森になる

(昭和56年度製作、16ミリ 30分)

新宿副都心近く、都市のまっただ中に住む子供たちの信州の森、新宿中央公園、目黒自然教育園などでの体験的学習を通じて、自然の森の機能と都市に緑の必要なことをわかりやすく解説したものです。

304 .緑の仲間

(昭和55年度製作、16ミリ 30分)

岐阜県のある徳山村は、近くダムができて水没する。

ここで一人で民宿を営んでいる「緑のおばあちゃん」を主人公に、緑を求めて都会からやって来る人たちと主人公との交流を通じて、緑が人間生活にとっていかに大切かを訴えます。

303 .海との約束

(昭和54年度製作、16ミリ 30分)

瀬戸内海の塩飽諸島の一つの岩黒島に生れ、父について立派な漁師になりたいと思っている少年が、海をきれいにしなければと思いつけています。

この映画はこの少年の生活を基に、閉鎖性水域と呼ばれる瀬戸内海、東京湾、伊勢湾などの汚染の機構と赤潮などの被害の実態、さらには汚染防止のための努力を追いながら、最後は少年の言葉を通して、海の汚染防止への国民みんなの協力を促します。

302 .翔べアヒルたち

(昭和53年度製作、16ミリ 30分)

テーマ「水の環境保全」水質汚濁に、その地域住民がどのように取り組み、河川をよみがえらせたか。

このテーマに対して、福島県白河市金屋町を流れる阿武隈川の支流・谷津田川を汚濁からよみがえらせた金屋町町内会の人たちの努力と、東京都葛飾区を流れる中川をよみがえらせた"中川をきれいにする会"の人たちの努力の二つの成功例を紹介しながら、なぜ河川は生きていなければならないかを、多くの人たちとともに考えます。

301 .リンゴを味わう

(昭和52年度製作、16ミリ30分)

飯田市立東中学校の生徒たちは、毎日曜日、朝の清掃とリンゴ並木の世話をし、市民憲章を実行しています。

昭和22年の大火を契機に自主的にはじめられたリンゴ並木造り。いろいろな事件をのり越え並木を守る生徒たちが苦勞の成果をかみしめます。

交通公害を考える(スライド)

(昭和59年度製作、35ミリカラーオートスライド 107枚 27分)

交通機関の発達、国民経済の発達や国民生活の向上に大きく寄与した反面、各地で深刻な交通公害を発生させています。

このスライドは、自動車、航空機、鉄道などによる交通公害の現状を紹介し、騒音の環境基準や規制、自動車公害では排ガスなどの発生源対策、道路構造の改善、沿道対策を、航空機騒音では航空機本体の改良や離着陸における運航方法の改善、空港周辺の対策を、また、新幹線鉄道騒音・振動についてもさまざまな対策を示し、交通公害対策の全容を解説しています。

501 .みんなで自然をささえよう

(平成4年度製作、VHS 18分)

夏休みに国立公園を訪れた少年「しげる君」が、ナチュラリストの青年「新庄さん」との出会いを通じて、国立公園の自然の素晴らしさやその自然がボランティアをはじめ多くの人々の手で守られていることに気づいていき、自然公園の生い立ちやわが国の国立公園の多彩な姿が紹介されている。

502 .瀬戸内海的环境保全

(平成8年度製作、VHS 23分)

昭和30年代からの日本の高度成長により、水質汚染が進行し、「瀕死の海」となって瀬戸内海を守ろうと、国をはじめ沿岸府県市の自治体、事業者、地域住民が一体となって取り組んできた四半世紀にわたる環境保全の記録です。

このビデオは、美しく豊かな瀬戸内海を取戻し、その瀬戸内海の持つ可能性をさらに開花させるために、環境保全のみならず、快適な環境の創造にむけて不断の努力を続けることが必要であることを訴えています。

なお、本ビデオは、平成8年度(環境庁)環境省からの委託を受けて(社)瀬戸内海環境保全協会が作成したビデオです。

野生鳥類保護記録映画の概要(環境省委託作品)

218 .ヤンバルの鳥たち

(昭和60年度製作、16ミリ20分)

沖縄本島北部の与那覇岳周辺で調査した、ノグチゲラ、ホントウアカヒゲ、ヤンバルクイナ(特殊鳥類)の生態状況と、その生態(子育ての状況の一部)を撮影したものです。この地方のほかの鳥の声や姿も収録されています。

217 .特殊鳥類～その記録(4)～

(昭和58年度製作、16ミリ16分)

昭和58年度、新たに特殊鳥類に指定されたワシタカ類6亜種のうちのクマタカ・ハヤブサ・オオタカの営巣状況など、一般にはなかなか見られないけの成長を収録しています。

216 .特殊鳥類～その記録(3)～

(昭和57年度製作、16ミリ27分)

昭和56年に沖縄本島山中で初めて発見された新種の鳥ヤンバルクイナは、鳥学的にも「世紀の発見」とさえいわれるものです。この映画は、環境省が生態調査を行った際、あわせて撮影されたもので、数少ない情報を頼りに、生息現場にカメラを据え、至近距離から撮影に成功した、極めて貴重な記録です。

215 .特殊鳥類～その記録(2)～

(昭和56年度製作、16ミリ20分)

特殊鳥類 - ニホンライチョウ、エゾシマフクロウの生態と生息環境を記録したものです。立山の夏の登山シーズンに地元のナチュラリストグループが行う自然保護活動を紹介しながら、あわせてニホンライチョウの生態を記録し、また、北海道釧路動物園におけるこの鳥の人工増殖の努力を中心にエゾシマフクロウの野生生息の実態を描いています。

214 .特殊鳥類～その記録(1)～

(昭和55年度製作、16ミリ30分)

奄美大島、沖縄本島に生息する絶滅のおそれのある特殊鳥類について、その生態及び生息環境を学術的見地から記録したものです。

213 .トキの捕獲にそなえて

(昭和54年度製作、16ミリ20分)

佐渡に生息するトキの成鳥捕獲による人工増殖事業を実施するに当たって、捕獲前調査、生息状況等を撮影記録したものです。

212 .変わりゆく干潟 (干潟シリーズNo.3)

(昭和54年度製作、16ミリ30分)

干潟が埋立てられていくにしたがい、そこを訪れる鳥の種類も変わってきます。干潟に思いがけない珍しい鳥が来ることもあります。一方、干潟ではクルマエビなどの人工増殖が行われたり、東京湾では人工なぎさが造成されています。このように変化して行く干潟の様子をとらえ、その中から干潟の将来を考えていこうとするものです。

211 .干潟の生きもの (干潟シリーズNo.2)

(昭和53年度製作、16ミリ30分)

一見、何の変哲もない砂と泥の浜、干潟。しかしそこには、さまざまな生物が食いつ食われつの生活があります。干潟を中継地とする渡り鳥は、この食物連鎖の頂点に位置しています。この映画は、干潟の生きものたちの生態を通じて干潟のもつ機能や意識を見直そうとするものです。

210 .干潟の鳥たち (干潟シリーズNo.1)

(昭和52年度製作、16ミリ30分)

干潟は、繁殖地と越冬地の間を往復するために日本列島を通過する族鳥(シギ・チドリ類)の採餌、休息の場としてなくてはならない場所です。ところが、開発のため、干潟の埋立て工事が各地で進められています。この映画は、干潟を利用する鳥類の生態を描き、鳥類保護と開発の接点を探ります。

209 .さぎのコロニー

(昭和51年度製作、16ミリ45分)

サギ類などが集団で営巣場所をコロニーと呼びます。集団の数が増えると、営巣の森林を枯らすことや、鳴き声や排泄物の臭気などがきらわれ、駆除の対象となることがあります。

また、養殖漁業を営む人たちにとっては害鳥として追われます。この映画はサギ類を中心にコロニーの生態を描き、鳥類の保護と人間生活とのかかわりを考えようとするものです。

208 .珍鳥をたずねて~東北地方~

(昭和50年度製作、16ミリ30分)

八郎潟干拓地の一隅で、"幻の鳥"といわれていたオオセッカの繁殖地が見つかりました。青森県十三湖付近でも見つかっています。さらに鳥海山麓のニホンクマタカ、ニホンイヌワシなど大型猛きん類の生態と生息環境を調査し、記録したものです。

207 .珍鳥をたずねて~北海道~

(昭和50年度製作、16ミリ30分)

北海道の屋根といわれる大雪山系(大雪山国立公園)には、シマフクロウ、エゾヤマセミ、クマガラ、エゾミユビゲラなどの珍しい鳥類が生息しています。これらの鳥類は、森林の開発とともにその生息範囲が狭められ、絶滅が心配されるようになりました。この映画は、それらの希少な鳥類の生息環境と繁殖状況を美しい大雪山の自然の中でとらえたものです。

206 .島じまにすむ鳥

(昭和49年度製作、16ミリ30分)

沖縄県の北大東島のダイトウミソサザイ、ダイトウコノハズク、三重県耳穴島、福岡県沖の島のカンムリウミスズメなど離島に生息する珍しい鳥類の生息状況と環境調査記録です。

205 .小笠原群島の鳥

(昭和49年度製作、16ミリ30分)

本土から約1,000kmも離れた小笠原群島には特有の鳥類が生息しています。そのうちオガサワラノスリ、アカガシラカラスバト、ハハジマメグロ、オガサアワラカワラヒワなどの生息状況とその環境を調査記録したものです。美しい小笠原の自然の景観もあわせて見ることができます。

204 .伊豆・薩南諸島の鳥

(昭和48年度製作、16ミリ30分)

伊豆七島の三宅島に生息する珍しい鳥、アカコッコ、カンムリウミスズメなどと薩南諸島に生息するアマミコゲラ、ナミアカシゲ、ルリカケスなどの生息環境の記録です。いずれも生息数が少なく保護の必要な鳥類です。

203 .沖縄・八重山の鳥

(昭和48年度製作、16ミリ35分)

沖縄八重山群島にはノグチゲラ、ホントウアカヒゲ、ウスアカヒゲ、カンムリワシ、ヨナクニカラスバト、ヤエヤマシロガシラなど保護を必要とする珍しい鳥類が生息しています。その生息環境を記録したのですが、たまたま日本で初めて確認されたモリツバメ、ハウチワドリの一種の生態もあわせて記録されています。また、絶滅が心配されているイリオモテヤマネコの生息地西表島(イリオモテジマ)の様子が記録されています。

202 .海鳥の島 東北編

(昭和47年度製作、16ミリ45分)

東北地方太平洋岸に浮かぶ、三貫島、椿島、足島、日出島は、クロコシジロウミツバメ、ウミネコ等の集団繁殖地として有名です。これら海鳥繁殖地の生息環境調査を行った際、あわせてその現状を映画に記録しました。今後の保全施策の貴重な基礎資料であるばかりでなく、自然に関心を持つ人たちをひきつける海鳥の生態記録です。

201 .海鳥の島 北海道

(昭和47年度製作、16ミリ45分)

北海道の大黒島、ユルリ、モユルリ島、松前小島、天売島は、各種の海鳥が集団で繁殖する島として有名です。これらの海鳥繁殖地の生息環境調査を行った際、あわせてその現状を映画に記録しました。今後の保全施策の貴重な基礎資料であるばかりでなく、自然に関心を持つ人たちをひきつける海鳥の生態記録です。